

新年例会

昭和四十五年一月二十一日

於 大阪中津東洋ホテル

出席者九一名 気温八度 晴

今回の会場、東洋ホテルは北大阪淀川の畔に昨年竣工した清新ユニークな近代設備の真新しいビルである。我等の日商とは浅からぬ系累を有し、且つ、昨年暮には日商新社長辻良雄氏の就任パーティを開催された等、我が会に取ってもゆかりの深い場所である。日商より出向勤務の幹部諸氏の御尽力を得て開催の運びとなる。

一、十一時 小野幹事開会の挨拶、本年は我が辰巳会が創立して満十周年を迎える誠に意義深い年であり、恰もお家様の三十三回忌に当り、又、噂の高い万博博覧会が三月幕明けと呼び声も華やかな折柄、之等を主軸として大々的に記念全国大会を開催したく種々懸案中である。先づ会期を五月七日としあ家様の御命日に因んで(御命日は五月六日であるがこの日御本家に於いて法事を執行されるので)本会に於いても追悼法要を執行、場所は奈良公園東大寺に近い



依水園に於ける全国大会スナップ

けて見ると杞憂は一度吹き飛んで、定刻前、まだ受付けの道具立も調わぬ先から陸続と参着、今更のように会員諸氏の熱情に改めて感激を噛みしめつつ転手古舞する。出席の予報に殆んど変りなく遠く北海道より七名、東京二十七名、中部十七名、四国十名、九州百四十五名、壯觀とも庄巻とも形容し難い第一会場たる大天幕の中の椅子席二百五十は余す所なく随所に久闊を叙すざざきが時を消して行く。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが



会務報告

小倉五郎

(K)

見てみると杞憂は一度吹き飛んで、定刻前、まだ受付けの道具立も調わぬ先から陸續と参着、今更のように会員諸氏の熱情に改めて感激を噛みしめつつ転手古舞する。出席の予報に殆んど変りなく遠く北海道より七名、東京二十七名、中部十七名、四国十名、九州百四十五名、壯觀とも庄巻とも形容し難い第一会場たる大天幕の中の椅子席二百五十は余す所なく隨所に久闊を叙すざざきが時を消して行く。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉ずる。待つ間もあらず小野幹事より開会の宣言と挨拶があり期せずして大会の時正午、六甲祥龍寺の雲水、菅宗信禪師は一山の大衆をしたが

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

て見る。正面美術館外壁の渡殿に鯨幕を張りめぐらせ八足台を三段に設けた戒壇には肅然としてお客様胸像の君臨を仰ぎ、背後に「善、無、畏」三世仏を、そして「諦教院尼芳潤大師」及「寂院弘誓」の牌軸を奉

依水園に於ける全国大会スナップ

鈴木よね刀自33回忌法要
並に全国大会出席者名簿
鈴木岩治郎氏27回忌法要

昭和45年5月7日
於奈良 依水園

單に会務を御報告申し上げたいと存じます。

先ず第一に本日の最大の荷事でありますお家さんの三十三回忌並びに御主人の二十七回忌の法要に対し御本家並びに高畠会長より各十万円宛、尚他に神戸岡清一さん名古屋毛受寛一さん、札幌川越孝教さん、函館桜庭亥一郎さん、大阪金子三次郎さん、京都多賀二夫さん、東京杉山金太郎さん、松本通さん、以上十二名の方より夫々お供えを頂戴致しておりますので御報告申上げます。誠に有難う御座いました。

次に去る一月廿一日大阪「東洋ホテル」における例会以後に判明した物故者を御報告申上げます。

死亡年月日（敬称略）

四四、五、八 高知 中岡 都治
一〇、一五 東京 橋本 政一
一一、二〇 神戸 牛尾 正英
四五、二、五 南 虎次
二、一〇 門司 木村 勝藏
二、一五 宝塚 芳川 君子
(芳川筋之助氏未亡人)

二、二六 芦屋 泉 威八郎
三、二三 東京 田辺 勘一
三、二四 西宮 浅倉 忠憲
三、二九 富士 渡辺 黎弼
四、一五 東京遠山市郎兵衛

以上の方々でありますて、辰巳会創立以来十年間に亡くなられました方は都合一八五名に達しましたが、転た感慨に堪えません。

茲で皆さま方のご同意を得まして今は亡き我等の先輩知友に対し暫し黙禱を捧げたいと存じます。

黙 禱 始め
黙 禱 終り

ありがとうございました。

さて本会結成当時「辰巳会はロソクの如き運命を持つてゐるのではないか」と憂慮せられた方もありましたが、只今もご報告申上げましたように、現実の問題としては、この老化現象は如何乍ら否定すべくもありません。

そこでその対策として既に遺族特に二世の方々にご参加願い、又旧鈴木の系列会社である傍系会社には法人メンバーとしてご入会願い、ご覧の如く尚盛大に且健全なる発展を持続していける事は洵にご同慶に堪えない次第であります。要は辰巳会は親睦団体であると共に、先輩の遺された鈴木精神を次代に継承して行くことも、亦一つの目的であると我々は確心してやまないものであります。

【41頁】

会 員 の 罢 動

| 氏名 | 自宅住所 | TEL | 勤務先又は職業 |
|--------|---|-----|--|
| 網干 尚明 | 〒247 横浜市戸塚区鍛冶ヶ谷町1045-61 | | |
| 榎本 周祐 | 899-22 鹿児島県日置郡東市来町湯田堀内1252 | | |
| 広井 亀吉 | 810 福岡市今川1-19-72 (福岡74-4476) | | |
| 久琢磨 | | | 九州日本空輸KK(福岡77-2531) 〒810 福岡市舞鶴町1-9-35 |
| 飯高 富二 | 662 西宮市段上町6-7-29 (西宮52-8746) | | 関西合気道俱楽部(大阪231-4113) 〒541 大阪市東区伏見町5-25 磯部運輸倉庫KK内 |
| 川村 重千代 | 145 東京都大田区北嶺町44-1 日綿雪ヶ谷社宅205号 (東京720-5202) | | |
| 小林 金一 | 655 神戸市垂水区塩屋町955-2 小林清重方 | | |
| 古出 よね | 662 西宮市鳴尾町3-6-21 (西宮47-2356) | | |
| 丸山 桂一 | 816 福岡市弥永団地26棟106号 | | |
| 松川 嘉平 | 652 神戸市兵庫区熊野町1-2-1 | | |
| 松岡 福吉 | 251 藤沢市藤ヶ岡3-17-3 (藤沢25-6571) | | |
| 松代 和四郎 | 659 芦屋市東芦屋町101 (芦屋22-2270) | | |
| 中村 勇吉 | 651 神戸市葺合区葺合町字中春日野6(神戸22-7239) | | |
| 仲田 勇吉 | 612 京都市伏見区深草寺内町860 (京都641-4310) | | |
| 小川 道子 | 181 三鷹市下連雀3-15-12 | | |
| 斎藤 扉吉 | 158 東京都世田谷区奥沢6-3-3 日商岩井田園 調布マンション403号 (東京703-6657) | | |
| 瀬戸 光雄 | 920 金沢市菊川町1-5-2 | | |
| 十河 広子 | 673 明石市山下町4-14 東鬼吉孝方 | | |
| 田中 真一 | 659 芦屋市宮塚町35 | | |
| 多賀 二夫 | 700 岡山市円山字大段383-17 | | |
| 高石 淳 | | | KK高井商会(神戸34-7681) |
| 高岡 芳馬 | 564 吹田市山手町3-35-7 | | 〒650 神戸市生田区元町通6-54-1 |
| 高山 康一 | 240 横浜市保土ヶ谷区岩崎町166 (横浜331-1057) | | |